



教育活動推進テーマ **学校大好き、友達大好き**

教育活動スローガン **目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる**

1 学校経営目標

府中市立府中第六小学校は、第3次府中市学校教育プランの目指す人間像【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人 【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人、【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人を受けて、本校の教育環境と協力的で温かな地域、近隣の浅間山や郷土の森公園等の豊かな自然環境や市立美術館等の文化的環境を十分に生かし、小学校教育の目的である日常生活に必要な基礎学力の定着と望ましい人間関係や自主及び自律の精神を育む教育活動を推進する。そして、府中版コミュニティ・スクールの機能を活用し、保護者・地域から信頼される学校づくりを教育活動推進テーマ「学校大好き、友達大好き」、教育活動スローガン「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」の下、進めていく。

2 学校経営目標を達成するための基本的な考え方

(1) 学校の教育目標

人権尊重の理念を基盤とした明るく平和な社会の形成者として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指すとともに、「生きる力」を育む。その実現のために、次のような児童像を設定する。【 】内は目指す資質・能力。

- | | | |
|--------------|------------------------|--------------|
| ○自分で学べる子（知） | 生涯を通して主体的に学び続けることができる子 | 【課題設定・課題対応力】 |
| ○仲よく助け合う子（徳） | 協力し合ってよりよい社会生活ができる子 | 【人間関係形成力】 |
| ◎たくましい子（体） | 困難に立ち向かう強い心と体をもつ子 | 【やりぬく力】 |

(2) 目指す学校像

学校の教育活動は子供たちのためにある。「それは子供たちの学びと育ちに必要か？」を第一の判断基準軸として教職員が一致協力し、教育課程を編成・実施していく。子供にとっても保護者にとっても、地域にとっても、所属職員にとっても信頼と誇りのもてる学校づくりを進める。二者間の「WIN-WIN」ではなく、「売り手（教職員）良し、買い手（子供・保護者）良し、世間（地域）良しの三方良し」を目指す。以下に、目指す学校像の姿、3点を示す。

- ①安全・安心・快適な学校～相手意識に立った迅速・丁寧な対応～ ②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校
③地域・保護者と連携協力する学校

3 中期的目標と今年度の重点及び方策

(1) 中期的目標

①安全・安心・快適な学校 ～相手意識に立った 迅速・丁寧な対応～ ●子供の心身のケアに教職員が一致団結して取り組む。 ●子供の人権が守られる学校環境づくりを推進する。 ●基本的生活習慣の育成及び定着を推進する。 ●危機管理を徹底する。	②所属職員が切磋琢磨し高め合う学校 ●授業改善に取り組む教師 ●子供の気持ちに寄り添う指導 ●各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化 ●OJTの充実と学校の運営組織力向上	③地域・保護者と連携協力する学校 ●学校と家庭と地域が協力して子供を育てる。 ●保護者・地域に学校の様子を伝えていく。 ●新校舎建設に向けて市教委・地域・保護者との充実した情報連携を図る。 ●府中版コミュニティスクールの更なる発展を図る。
---	---	---

(2) 今年度の重点及び方策

①安全・安心・快適な学校 ～相手意識に立った迅速・丁寧な対応～

- 子どもの人権が守られる学校環境づくりを推進する。
 - ・安心して登校できる学級づくりを進める
 - ・いじめ、登校渋り、不登校への適切な対応
 - ・規範意識の育成及び定着
 - ・サービス事故防止の徹底（凡事徹底）
- ◎サポートルームの適切な運営
 - ～登校渋りが始まった際にできるだけ速やかに管理職を含めて情報共有し学校・保護者と相談しながらその時点で最適な対応を取っていく。
- 基本的生活習慣の育成及び定着を推進する。
 - ・挨拶、廊下歩行、整理整頓、丁寧な清掃
 - ・早寝、早起き、ノースクリーンデーの取組
- 危機管理を徹底する。～悪い情報（学校に危機的なこと）ほど早く管理職に伝わる組織。
 - ・オンゼフライミーティングの活用「とりあえず」「一報」
 - ・報告、連絡、相談、記録（報連相記）を日常的に行う。
 - ・子供の情報の共有化（マイナス情報だけでなく、「イイね！」の共有。職員室での子供自慢。）

【主な成果（○）と課題（▲）】

- 昨年度は課題や問題の受け止め方の軽重に個人差があったが、事実確認、対応確認を管理職、生活指導主幹、学年主任、学年団で組織的に解決に向かえるようになった。大人も心理的安定を保てるように組織的に対応することにより担任が一人で課題を抱え込むことが無かった。
- 生活指導夕会時に生活指導案件の情報共有や生活指導主任からのミニ研修を実施することにより生活指導がより充実してきている。
- サポートルームや保健室使用のルールを原則を定めながらも個別に本人・保護者と相談するケースも設定し、登校渋りの児童も早期の教室復帰を果たすことができています。
- ▲登校渋りが始まった際にできるだけ速やかに管理職を含めて情報共有し学校・保護者と相談しながら適切な対応を取っていくこと。
- ▲家族の問題や医療や福祉的な問題を抱えた案件も散見されている。外部との連携や市教委との連携をより一層進めていき、子供第一の対応を全校で取り組んでいきたい。

②所属職員が切磋琢磨（自己研鑽⇄相互研鑽）し高め合う学校

【府六プライド】「愛と情熱、敬意と誠意」をもって職務に臨む

- 授業改善に取り組む教師
 - ・学習指導要領に示されている主体的・対話的で深い学びを意識し、UDの視点も活用した授業改善を校内研究・授業観察、OJTとリンクして行っていく。
- ◎全教職員で6年生のリーダー性を伸ばしていく
 - ・子供の自発性を尊重した意図的・計画的な年間を通した縦割り班活動の指導・支援を行う。
 - ・委員会・クラブでの指導・支援の充実
- 子供の気持ちに寄り添う指導
 - ・心情的共感と客観的事実についての指導を行う。
 - ・熱心な無理解者になっていないか常に自己の指導を振り返る。
- 各主任を中心にしたチームとしての対応・情報の共有化
 - ・リーダーシップとフォロワーシップ 「チームのために自分は何ができるか」
 - ・個人最適（独善的）ではなく、全体最適の視点で思考し行動する。
 - ・ケア（気遣い、気働き）、同僚性の更なる醸成
- OJTの充実と学校の運営組織力向上
 - ・学年会、専科会、学校運営組織がOJTであるという意識醸成。
 - ・企画会での学年主任育成とOJT研修会での個人の能力・資質育成と組織貢献力向上を図る。
 - ・主任・副主任体制と2人主任体制の良さを生かした分掌運営を常に改善しながら進めていく。
- ◎ミドルリーダーの育成も主幹教諭・指導教諭が意図的・計画的に進めていく。

【主な成果（○）と課題（▲）】

- 年間を通じて国語・算数・社会分科会で「深い学び」を視点とした授業研究に取り組み、子供たちの変容が見られた。授業観察を校内研究に組み込み、分科会研究発表を実施することにより教員の当事者意識を涵養することができた。
- 学年副主任や分掌副主任ポストに就かせた者の当事者意識が高くなった。分掌のW主任制も効果的な運営管理ができた。
- ▲課題発見・解決策提示ができるようなミドルリーダー育成の時間と場の確保すること。学年や分掌副主任の活躍の機会を設定していくこと。

③地域・保護者と連携協力する学校

- 学校と家庭と地域が協力して子供を育てる
 - ・保護者会や学校行事、地域行事、スクールコミュニティ（SC）協議会、おやじの会
- 保護者・地域に学校の様子を伝えていく
 - ・学校便り、学年便り（学年の窓）、学級通信、ホームページによる啓発
 - ・PTA本部会の活用、SC協議会、保護者会、おやじの会
- ◎スマート連絡帳の更なる活用
- 新校舎建設に向けて
 - ・R6年12月末の新校舎へのスムーズな引っ越しに向けて各方面と連携して適切に準備を進める。
- 地域人材・資源活用
 - ・持続可能な社会の創り手となる資質・能力を育む教育を地域人材や資源等を有効に活用して推進する。
- ◎「未来へつなぐ府中2020レガシー」や「かがやき」の授業と関連して各学年でゲストティチャーを迎えての授業を年に複数回実施する。

【主な成果（○）と課題（▲）】

- 六小農園活動、スポーツフェスタ、PTA本部とおやじの会との三者懇親会、SC委員と教員の懇談会などで地域・保護者と事前打ち合わせから連携して、無事に成功や実りのある会を実施することができた。
- 新校舎建設に向けて施設課と連携しながら新校舎に関しての計画や仮校舎での生活を円滑に進めることができた
- 6年生を送る会ではPTA本部やおやじの会、SC協議会の委員の方の参観をしていただいた。府中第六小の1年生から6年生への育ちを見てもらい、子供たちの良さを改めて感じてもらうことができた。
- ▲今後も学校の行事や授業を実際に参観してもらった後に直接教職員と懇談できる場と時間の確保。

④その他、第3次府中市学校教育プラン・教育施策等との関連

- 特別支援教育の充実
 - ・専門性の向上。ICT機器を活用した授業改善。特別支援教室における指導の充実。関係機関との連携。
- ◎レベル1, 2, 3を共通理解して指導・支援を組織的に進める。
- 「未来へつなぐ府中2020レガシー」の推進
 - ・オリパラ教育、ふるさと教育、ESDやSDGsの継続・発展
 - ・府中市文化施設等の活用。
- ICT教育・府中市GIGAスクール構想の推進
 - ・ICT機器、デジタル教科書の活用
 - ・スマート連絡帳の導入・活用
- 教職員の働き方改革
 - ・出退勤管理。在校時間の目標明示
 - ・超過勤務の著しい教員との月例面談
 - ・スマート連絡帳の導入・活用
 - ◎退勤時刻を意識して逆算をする働き方を進める
 - ・会議を減らして勤務時間内に個々の教員が活用できる時間を増やす。
- 小中連携・一貫教育の推進
 - ・府中第五中学区における目指す子供像と育成・醸成すべき力を共有して9年間の「学び」と「育ち」の充実を図る。

【主な成果（○）と課題（▲）】

- 特別支援教育部会や校内委員会を活用して支援が必要な子供たちについて充実した話し合いができていた。
- 府中第五中学校ボランティア制度を小学校行事で活用させていただいた。職場体験や部活動体験などで相互連携が進んだ。
- 令和6年度を見据えて教務主任を年度途中で2人体制にして校務を進めさせた。効果的なOJTとなりスムーズに引継ぎを行うことができた。見通しを持って動くことの重要性を再確認できた。
- 校内での毎朝の出欠席をタブレット端末で管理するシステムに3学期より実施している。欠席状況が全校で把握され、連絡無し欠席児童の家庭にも速やかな連絡が取れるようになり、安全管理が向上した。
- ▲特別支援においては環境調整によって軽減される特性もある。多様な環境調整に関しても学び・実践していく必要がある。
- ▲見通しをもって仕事を進める教員が増え、全体的に超過勤務の軽減が図られたが退勤時刻を意識した働き方を全教員に啓発していく必要がある。

4 今年度の数値目標：関係者評価（①児童・②保護者）と自己評価（③教員）

【①児童456名(3～6年) ②保護者310名(家庭数357回収率86.8%) ③教員28名】

★アンダーラインは令和4年度に未達成だった項目。黄色背景は今年度(令和5年度)に未達成だった項目。

(1)学校生活について ①②③肯定的評価 85%以上 ※アンダーラインは達成できなかった項目

設問 1 ①いじめや仲間はずれをせず、友達となかよく生活している。 ②お子さんは、友達と仲良く過ごせていると思う。 ③いじめの未然防止・早期発見・解決につとめ、いじめのない学級づくり(学校づくり)ができています。				設問 2 ①みんなのきまりを守っている。 ②お子さんは、きまりを守って行動している。 ③みんなのきまりを守って子供たちに行動させている。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
児童	93%	7%		児童	94%	6%	
保護者	95%	4%	1%	保護者	93%	5%	2%
教員	100%	0%		教員	100%	0%	
設問 3 ①レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いをしている。 ②お子さんは挨拶がしっかりとできる子である。 ③レベル5のあいさつや丁寧な言葉遣いができている。				設問 4 ①自分にはよいところや得意なことがある。 ②お子さんは、自信をもって学校生活を送っていると思う。 ③児童の自己肯定感向上のため、3かけ(目・声・心)3ほめを徹底した。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
児童	74%	26%		児童	88%	12%	
保護者	83%	14%	4%	保護者	81%	16%	3%
教員	96%	4%		教員	100%	0%	
設問 5 ①やると決めたことややらなければいけないことを、最後までやりぬいている。 ②お子さんは、学習や課題に取り組む時、最後までやる抜くことができる。 ③子供たちの粘り強く取り組む力や、やりぬく力を育てることができている。				設問 6 ①学校は楽しい。 ②お子さんは、学校生活を楽しんでいると思う。 ③子供たちが楽しく学校生活を送るよう、工夫して指導しその結果楽しく学校生活を送ることができている。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
児童	88%	12%		児童	84%	16%	
保護者	85%	15%	0	保護者	91%	6%	2%
教員	87%	13%		教員	96%	4%	
設問 7 ①困っているときなどに先生たちは話を聞いてくれたり、励ましてくれたりして助けてくれる。 ②学校はお子さんの声に耳を傾け、親身になって受け止めようとしている。 ③学校は子供の声を受け止め、親身になって対応している。							
	肯定的評価	否定的評価	わからない				
児童	91%	9%					
保護者	90%	10%	0				
教員	96%	4%					

設問3のあいさつに関して、オアシス週間や全校朝会、職員会議など機会を逃さずに「あいさつ」について指導を続けてきたが、評価自体は85%を下回った。各分掌や各学年・学級でのあいさつや丁寧な言葉遣いに関しての取組もしっかりとしたものになるように次年度は手立てをしっかりと立てていく。

毎朝の登校指導時の校長からのあいさつに対して、声の大小、元気の良さに個人差はあるが、好意的にあいさつをする児童が殆どである。相手に伝わるあいさつというものを校長として多様な手立てで児童、保護者、教員に啓発を続けていく。

設問5に関しては教育目標の重点「たくましい子」の育成への取組が浸透していると考え。非認知能力を高めていけるような教育課程を今後も考えていく。

設問6に関しては教員自らがこの児童の評価をしっかりと受け止めて児童の期待に応えるような楽しい学校生活を設定し、児童評価が100%となるようにする必要がある。そのことが不登校減にも繋がっていく要員であることを示していきたい。

設問7については「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる～相手意識に立った迅速・丁寧な対応」を次年度引き続き学校経営の一つの柱として継続していく必要があると考える。

(2)学習について ①②③肯定的評価85%以上

設問8				設問9			
①学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けをきちんとしている。				①毎日、家で学習する習慣(目安:学年×10分)が身についている。			
②お子さんは、身の回りの整理・整頓がきちんとできる。				②お子さんは、毎日家庭学習に取り組んでいる。(目安:学年×10分)			
③学習の準備(筆箱・下敷きも含む)や片付けができる。				③子供たちが意欲をもって家庭学習に取り組める工夫をしている。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
児童	86%	914		児童	70%	30%	
保護者	47%	52%	1%	保護者	81%	19%	1%
教員	87%	13%		教員	87%	13%	
設問10				設問11			
①学校の授業がよく分かる。				①体を動かすことが好きで、進んで運動している。			
②お子さんは、漢字や計算力など学年の基本的な学習を理解している。				②お子さんは、体を動かすことを楽しみ、進んで運動している。			
③子供たちにとって分かりやすい授業をしている				③子供たちが学校生活の中で、進んで体を動かすよう、積極的に声をかけたり、学級遊びを工夫したりしている。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
児童	94%	6%		児童	77%	23%	
保護者	86%	13%	1%	保護者	78%	21%	
教員	91%	9%		教員	78%	22%	
設問12							
②③学校は保護者や地域の要望に迅速に対応している。							
	肯定的評価	否定的評価	わからない				
保護者	86%	3%	11%				
教員	96%	4%					

設問8の保護者肯定的評価の低さは保護者会など実態把握、情報共有、学校と家庭での指導の一致を図るなどしていきたい。設問9の家庭学習に関して児童の肯定的評価が低いことに関しては、習い事などの多様化でまとまった時間

が取れないこと、スマホやゲームに時間を費やしていることが考えられる。ノースクリーンデーの取組を数回に増やし、家庭との連携、家庭への啓発を続けていく。

設問10では「深い学び」についてをテーマとした校内研の成果と考えられる。日常の授業改善を積み上げていく姿勢を今後も継続していきたい。

設問11に関しては新校舎建設のため今後校庭が狭くなっていく計画である。体を動かす場と時間の設定でできる工夫を実施していく。

設問12に関しては肯定的評価が上昇した。今年度は「相手意識に立った迅速・丁寧な対応」を学校経営で重視してきた。教員と保護者との感覚のずれが改善されてきた。

(3)学校運営などについて ①②③85%以上

設問13				設問14			
②六小の教育活動のあり方に満足している。				②ご家庭に必要な情報が学校から提供されている。			
③六小の教育活動に満足できる。				③学校は保護者に必要な情報をきちんと提供している。			
	肯定的評価	否定的評価	わからない		肯定的評価	否定的評価	わからない
保護者	95%	2%	3%	保護者	91%	8%	1%
教員	96%	4%		教員	91%	9%	
設問15							
②学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。							
③学校は児童の安全(火災や地震、不審者への対応など)について配慮できている。							
	肯定的評価	否定的評価	わからない				
保護者	94%	2%	4%				
教員	100%	0%					

学校運営に関しては、保護者と教員の意識の差はほとんど見られない。全設問で肯定的評価が90%前後と良好な評価を得ている。学校公開や学校行事、メール配信、保護者会、各種通知等で情報発信を行っていったことの成果だと考える。より一層保護者との情報連携、行動連携をより充実させていきたい。

【総括:1年間を終えて】

府中第六小学校学区は学校教育に関心が高く、協力的な保護者・地域である。学校への期待を裏切らないように日々気持ちを新たにして学校経営に取り組み、経営目標を達成できるように努力してきた。

令和4年度の3学期から使用開始した仮設校舎での生活も1年以上となり、子供たちが安全・安心な生活が送れるようになった。これも教職員の協力体制の良さの表れである。教職員の同僚性の高まりに感謝である。人事異動もチャンスととらえて府中第六小学校として更なる組織的な進化を遂げられるように校長としてのリーダーシップ・フォロワーシップを発揮していきたい。

学校運営についての教員の肯定的評価が全て100%となるように、教員がプライドを持って働ける職場作りが達成できるように、尽力していく所存である。